

検査項目説明

～血液・尿検査でわかること～



京都第一赤十字病院 検査部

TEL075-561-1121

2025 年 1 月 14 日時点

京都第一赤十字病院検査部で実施している血液・尿などの主な検査項目の意味と基準値(大人の値)を示しました。

基準値とは健康人の約 95%が含まれる範囲の値であり、基準値からはずれたといって疾患の有無を示すものではありません。

また、基準範囲内でも治療の対象となる場合もあります。

(※なお、今回のバージョンで血液検査および生化学検査の基準範囲の大幅な見直しを実施しておりますので、参照にはご注意ください※)

血液検査の結果は年齢や性別、食事、運動などの条件で変動します。

病気の診断は医師が総合的に行いますので、検査結果の詳細は直接担当医に相談し、十分な説明を受けてください。

また、基準値は変更することがあり、医師から配布された検査結果表が最新です。

採血、採尿の時に気を付けたいこと

1. 採血時の注意

- ・ 採血の前のお食事やお薬の服用は、事前に主治医に確認しましょう。
- ・ 採血後は、揉まずに数分間しっかり押さえて止血してください。
- ・ 内出血した場合は青あざになることがありますが、1～2 週間くらいで消えます。痛みが続く場合は申し出てください。
- ・ 当日の入浴は可能ですが、採血の部位は強くこすらないでください。
- ・ 消毒薬にアレルギーのある方、ワーファリン等のお薬を服用されている方、乳房切除術を受けられた方、その他ご心配のある方は採血時に申し出てください。

2. 尿の採り方

- ・ 最初と最後の尿は尿コップに入れず、中間尿を尿コップに入れてください。
- ・ 採尿の量は尿コップの一番下の 25 のライン(線)まであれば十分です。
- ・ 生理中の方は申し出てください。
- ・ 尿の出にくい方は、自宅で採尿して持参していただけるように容器をお渡しします。
- ・ 尿の出なかった方は採血室受付へ申し出てください。



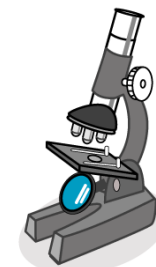
*尿検査について

尿検査	基準値	何がわかるの？
【尿定性】		尿の成分を試験紙法で調べます。
潜血反応	(一)	血尿を発見することができます。 腎・尿路の炎症、結石の存在などを調べます。
蛋白	(一)	腎疾患の発見の手がかりのひとつです。 健常者でも運動などで一過性に上がる場合があります。
糖	(一)	血糖が上昇する疾患などで陽性になることがあります。
ウビリノーゲン	(+／－)	肝臓・胆道系の障害や黄疸をともしう病気の鑑別に有用です。
ビリルビン	(一)	肝炎などによる黄疸の場合に陽性になることがあります。
アセトン	(一)	重症糖尿病や栄養状態が悪い場合に陽性になることがあります。
【尿沈査】		尿の沈殿成分を顕微鏡で調べます。
赤血球	4 以下/HPF	血尿を発見することができます。
白血球	4 以下/HPF	膀胱炎などの炎症で増加します。
円柱	硝子円柱 1 以下	腎臓の障害を強く疑う場合に検出されます。
細菌	(一)	尿路感染の疑いがわかります。

尿検査	基準値	何がわかるの？
尿蛋白定量	30-120 mg/day	腎疾患の発見の手がかりのひとつです。 健常者でも運動などで一過性に上がることもあります。
尿アミラーゼ	65-700 U/L	膵炎などのすい臓の病気で上昇します。

*便検査について

便検査	基準値	何がわかるの？
免疫便潜血反応	(一)	大腸など下部の消化管からの出血の有無を調べます。
便中カルプロテクチン	0-80 μ g/g 便	慢性的な炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎(UC)やクローン病(CD)等)を調べます。
便虫卵・原虫検査	陰性(認めず)	体内の寄生虫の存在を調べます。



*血液・凝固検査について

血球算定		基準値	何がわかるの？
白血球数		3300-8600/ μ L	細菌感染や炎症の検査 感染症や白血病などで増加します。
赤血球数		男 435 万-555 万/ μ L 女 386 万-492 万/ μ L	貧血の検査 これらを調べることで貧血の原因がわかります。
血色素量(Hb)		男 13.7-16.8g/dL 女 11.6-14.8g/dL	
ヘマトクリット値(Ht)		男 40.7-50.1% 女 35.1-44.4%	
血小板数		15.8 万-34.8 万/ μ L	血小板の数が減少すると血が止まりにくくなります。
【血液像】			白血球の分類を調べる検査
白血球分画	好中球数	38.5～80.5 %	増加:細菌感染症など
	リンパ球数	16.5～49.5 %	増加:ウイルス感染症など
	単球数	2.0～10.0 %	増加:慢性感染症など
	好酸球数	0.0～8.5 %	増加:アレルギー疾患、寄生虫など
	好塩基球数	0.0～2.5 %	増加:慢性骨髄性白血病、アレルギー疾患など

網赤血球数	5~25 ‰	骨髄での造血能力をみる検査です。
赤血球沈降速度(赤沈)	男 2-10 mm/h 女 3-15 mm/h	感染症や貧血などで進みが早くなります。

凝固検査	基準値	何がわかるの？
		血液がきちんと固まるかを調べる検査
プロトロンビン時間(PT)	INR 0.9-1.1	血液の凝固異常を調べる検査です。 ワーファリン治療時に薬の量を調整するために測定します。
活性化部分トロンボプラスチン時間(APTT)	対照値 $\pm$ 25%	血液の凝固異常を調べる検査です。 ヘパリン療法の経過観察にも必要な検査です。
フィブリーノーゲン量(FBG)	200-400mg/dL	感染症などで高値になります。
アンチトロンビン(AT)	80-130 %	肝障害などで低値になります。
FDP	5.0 μ g/mL 未満	血栓症などで高値になります。
D-D ダイマー(DD)	1.0 μ g/mL 以下	血栓症などで高値になります。



*免疫・生化学検査について

蛋白検査	基準値	何がわかるの？
総蛋白 (TP)	6.6-8.1 g/dL	一般に健康や栄養状態の指標として利用され、肝臓の働きが悪いと低下します。
アルブミン (ALB)	4.1-5.1 g/dL	アルブミンは代表的なたんぱく質の一つで、栄養状態の指標になります。

肝・胆道検査	基準値	何がわかるの？
アンモニア (NH ₃)	15-80 μ g/dL	肝硬変や高度な肝機能障害時に高値を示します。運動後や食事の摂取後にも上昇します。
アスパラギン酸アミトランスフェラーゼ (AST)	13-30 U/L	肝疾患や心筋梗塞などで高くなります。
アラニンアミトランスフェラーゼ (ALT)	男 10-42 U/L 女 7-23 U/L	肝臓や胆管の病気で高くなります。
乳酸脱水素酵素 (LD)	124-222 U/L	広く体内各臓器に分布し、肝、血液の病気で高くなります。
アルカリフォスファターゼ (ALP)	38-113 U/L	肝臓・胆道系の病気や骨の病気で高くなります。
γ-グルタミルトランスペプチダーゼ (γ-GT)	男 13-64 U/L 女 9-32 U/L	主に肝臓・胆道系の異常やアルコール性肝障害などの病気で高くなります。
コリンエステラーゼ (ChE)	男 240-486 U/L 女 201-421 U/L	主に肝臓の病気で低くなります。
総ビリルビン (T-Bil)	0.4-1.5mg/dL	肝臓・胆道の病気で高くなり、黄疸の指標になります。
直接ビリルビン (D-Bil)	0.4 mg/dL 以下	肝炎や胆管の通過障害などが原因の時に増加します。

すい臓検査	基準値	何がわかるの？
アミラーゼ (AMY)	44-132 U/L	すい臓や唾液腺の病気で高くなります。
リパーゼ (LIPA)	13-55 U/L	すい臓の病気で高くなります。

心臓病検査	基準値	何がわかるの？
クレアチンキナーゼ (CK)	男 59-248U/L 女 41-153 U/L	心臓や骨格筋などの損傷の程度を反映します。急性心筋梗塞や激しい運動後に上昇します。
クレアチンキナーゼ MB (CK-MB)	5 ng/mL 以下	CKを構成する成分の一つで心筋に多く含まれ、心筋梗塞のときに高くなります。
トロポニン I	26.2 pg/mL 未満	心筋梗塞のときに上昇します。
脳性 Na 利尿ホルモン (BNP)	18.4 pg/mL 以下	心不全のときに高くなり、治療効果の判断に使用します。

腎機能検査	基準値	何がわかるの？
尿素窒素(BUN)	8-20 mg/dL	腎臓の機能が低下すると高くなります。
クレアチニン (Cre)	男 0.65-1.07mg/dL 女 0.46-0.79mg/dL	腎臓の機能が悪くなると上昇します。
尿酸 (UA)	男 3.7-7.0 mg/dL 女 2.6-7.0 mg/dL	食事内容、アルコールなどで上昇します。痛風などで高くなります。 高尿酸血症診断基準: >7.0mg/dL
無機リン (InP)	2.7-4.6 mg/dL	骨の代謝異常や腎不全で高値となります。

電解質検査	基準値	何がわかるの？
ナトリウム(Na)	138-145 mEq/L	体内の水分調節の状態をみています。 腎臓の病気やホルモンの異常、脱水などで増加したり、減少したりします。
クロール(CL)	101-108 mEq/L	
カリウム(K)	3.6-4.8mEq/L	
カルシウム(Ca)	8.8-10.1 mg/dL	骨の病気やさまざまな内分泌の病気 で変動します。心臓や血管の働きにも 重要な役割を果たしています。

免疫検査	基準値	何がわかるの？
免疫グロブリン G (IgG)	861-1747 mg/dL	慢性炎症性疾患で高くなります。
免疫グロブリン A (IgA)	93-393 mg/dL	
免疫グロブリン M (IgM)	男 33-183 mg/dL 女 50-269 mg/dL	
補体 C3 補体 C4 血清補体価 (CH50)	73-138 mg/dL 11-31 mg/dL 30-53 U/mL	免疫が働くために大切な成分の一つ です。 免疫が強く関与する疾患の診断や経過 観察に利用されます。
リウマチ因子定量 (RF)	15 U/mL 以下	慢性関節リウマチの治療や判定などで検 査します。

炎症検査	基準値	何がわかるの？
C 反応性蛋白 (CRP)	0.14mg/dL 以下	炎症や感染症などにより速やかに上 昇します。
プロカルシトニン定量 (PCT)	0.5 ng/mL 未満	細菌感染時に上昇します。
マトリックスメタロプロ テアーゼ-3(MMP-3)	男 35.2-123.8ng/mL 女 16.1-56.8ng/mL	慢性関節リウマチの鑑別診断、関節破 壊の程度、治療効果の判定に用いま す。

糖尿病検査	基準値	何がわかるの？
血糖(Glu)	73-109 mg/dL	血液中のブドウ糖濃度です。 糖尿病で高くなります。
HbA1c	4.9-6.0 %	過去1~2か月前の平均的な血糖値の程 度を反映しているので、糖尿病での血糖 の管理に有用です。

脂質検査	基準値	何がわかるの？
総コレステロール (T-Cho)	142-219mg/dL	生体の主要脂質成分の一つで、高くなると 動脈硬化などの生活習慣病の原因にな ります。
中性脂肪(TG)	男 40-149 mg/dL 女 30-149 mg/dL	食事の影響を受けやすく、高くなると動脈 硬化の原因になります。 脂質異常症診断基準: $\geq 150\text{mg/dL}$
HDL コレステロール (HDL-Cho)	男 40-90 mg/dL 女 40-103 mg/dL	善玉コレステロールと呼ばれ、動脈硬化を予 防します。 脂質異常症診断基準: $< 40\text{mg/dL}$
LDL コレステロール (LDL-Cho)	65-119 mg/dL	悪玉コレステロールと呼ばれ、増加すれば、血 管壁に溜まり、心筋梗塞や動脈硬化など の発生率が増加します。 脂質異常症診断基準: $\geq 120\text{mg/dL}$

貧血検査	基準値	何がわかるの？
血清鉄(Fe)	男 44-192 $\mu\text{g/dL}$ 女 29-164 $\mu\text{g/dL}$	鉄の欠乏状態、過剰状態を疑う時に測 定します。鉄欠乏貧血で減少します。
総鉄結合能 (TIBC)	男 253-365 $\mu\text{g/dL}$ 女 246-410 $\mu\text{g/dL}$	鉄欠乏貧血の時は鉄欠乏状態を解消 しようと総鉄結合能が上昇します。
フェリチン	男: 15-303 ng/mL 女: 5-120 ng/mL	体内の鉄欠乏や鉄過剰の状態を把握し ます。

感染症検査	基準値	何がわかるの？
HBs 抗原 (HBs-Ag)	陰性 0.005 IU/mL 未満	現在 B 型肝炎に感染しているかがわかります。
HBs 抗体 (HBs-Ab)	10.0 mIU/mL 未満	過去に B 型肝炎に感染したことがあるか、B 型ワクチンを接種した場合に陽性になります。
HBc 抗体 (HBc-Ab)	陰性 1.0 C.O.I 未満	現在 B 型肝炎に感染しているか、過去に感染していたかがわかります。
HCV 抗体 (HCV)	陰性 1.00 C.O.I 未満	現在 C 型肝炎に感染しているか、または過去に感染したことがあるかがわかります。
HIV	陰性 1.00 C.O.I 未満	後天性免疫不全ウイルスに感染しているかがわかります。
RPR	1.0 R.U 未満	梅毒に感染しているか、生物学的疑陽性(BFP)の場合に陽性になります。
抗streptリジン O (ASO)	成人:160 IU/mL 以下 小児:250 IU/mL 以下	溶連菌感染症の診断に用います。

内分泌検査	基準値	何がわかるの？
FT3 FT4	1.68-3.67 pg/mL 0.70-1.48 ng/dL	甲状腺のホルモンの一種で甲状腺機能亢進や機能低下を調べます。
TSH	0.350-4.940 μ IU/mL	甲状腺刺激ホルモンです。甲状腺の病気を診断するための検査です。
インスリン(IRI)	18.7 μ IU/mL 以下	血糖を調整するホルモンで、糖尿病の診断に役立ちます。
β -HCG	閉経:6.0 mIU/mL 未満 有経:3.0 mIU/mL 未満 男性:2.0 mIU/mL 未満	妊娠の診断と子宮外妊娠や自然流産の予後観察で測定します。
コルチゾール	7.07-19.6 μ g/dL (午前 6～10 時)	副腎皮質ホルモン関連の内分泌異常を調べます。
ACTH	7.2～63.3 pg/mL	

腫瘍マーカー	基準値	何がわかるの？
AFP	9 ng/mL 以下	主に肝臓の腫瘍で高くなります。肝硬変や肝炎などでも上昇します。
CEA	5.0 ng/mL 以下	大腸がんをはじめとする消化器の腫瘍や肺腫瘍などで高くなります。高齢や喫煙でも高くなります。
CA19-9	37.0 U/mL 以下	主にすい臓や胆道系の腫瘍で高くなります。
PSA	4.000 ng/mL 以下	前立腺がん、前立腺肥大症などで高くなります。
CA-125	35.0 U/mL 以下	主に卵巣や子宮体部腫瘍で高くなります。妊娠初期や月経時などでも一過性に高くなることもあります。
CA15-3	31.3 U/mL 以下	乳がんなどで高くなります。
シフラ	3.5 ng/mL 以下	主に肺の腫瘍で高くなります。
SCC	1.5 ng/mL 以下	子宮頸がんなど各種扁平上皮の腫瘍で高くなります。
PIVKA-II	40 mAU/mL 未満	肝細胞がんなどで高くなります。
sIL-2R	157-475 U/mL	非ホジキンリンパ腫やATLの診断や経過観察に用いられます。

腫瘍マーカーとは正常細胞ではほとんど産生されず、腫瘍(がん)細胞に特異的に産生される物質、またはがんが生体内にあることによって産生される物質です。しかし、実際の腫瘍マーカーの検査値は、必ずしも病気の状態を反映していない場合があります、正確な判断には専門的知識が必要です。疑問のある場合は主治医におたずねください。

その他	基準値	何がわかるの？
KL-6	500 U/mL 未満	間質性肺炎の病態を反映しています。